第６節　県の事務・事業における温室効果ガス排出削減

１　福井県庁地球温暖化防止実行計画【環境政策課】

県では、平成 13 年度に「福井県庁地球温暖化防止実行計画（福井県庁エコオフィスプラン）」を策定し、県の全ての事務・事業（他者に委託等をして行う事務および事業は除く）に係る温室効果ガスの排出削減に取り組んできました。

令和５年３月の福井県環境基本計画の改定に伴い、同計画を併せて改定し、県の温室効果ガスの排出削減目標を、前計画の 2030 年度 40% 削減から 50% 削減（いずれも 2013 年度比）に引き上げました。

基準年度		目標年度
2013 年度	⇨	2030 年度
113,930 t-CO_2		56,965 t-CO_2（△50%）

改定した実行計画では、2023 年度から 2030 年度を計画期間とし、「県有施設の 50% 以上の太陽光発電設備の設置」、「新築事業についての ZEB [*1] Oriented 相当以上の採用」「新規導入・更新する公用車の電動車（EV・PHV・FCV・HV) の採用」等により再生可能エネルギーの導入促進や省エネルギーを推進するとともに、「節水や水の有効利用」、「用紙類の使用量削減」、「廃棄物発生の抑制や 3R の推進」による省資源化を推進していきます。

県自らの事務・事業で排出する温室効果ガスを抑制することにより、市町や事業者の温暖化防止に向けた積極的な活動を促していきます。

なお、2023 年度（令和５年度）の排出量は、82,467t-CO_2（2013 年度比 27.6% 減）であり、対前年度で微増しています。これは恐竜博物館に新館が増築された事等が影響しています。

表１- ６- １　個別取組の令和４年度、令和５年度実績と基準年度の平成 25 年度との比較

項目		基準年度 2013 年度（平成 25 年度）実績	2022 年度（令和４年度）		2023 年度（令和５年度）	
			実績	基準年度比	実績	基準年度比
温室効果ガス総排出量（CO_2 換算値）*		113,930 t-CO_2	82,038 t-CO_2	28.0%削減	82,467 t-CO_2	27.6%削減
個別取組	電気使用量	124,547 千 kWh	116,791 千 kWh	6.2%削減	117,064 千 kWh	6.0%削減
	冷暖房等燃料使用量（原油換算値）	9,746 kL	8,020 kL	17.7%削減	7,850 kL	19.5%削減
	公用車燃料使用量（原油換算値）	1,387 kL	954 kL	31.2%削減	925 kL	33.3%削減
	水使用量	1,781 千 m^3	1,827 千 m^3	2.6%増加	1,983 千 m^3	11.3%増加
	複写用紙使用量	417 t	332 t	20.4%削減	266 t	36.1%削減
	可燃ごみ廃棄量	2,191 kg/ 日	1,623 kg/ 日	25.9%削減	1,537 kg/ 日	29.8%削減
	不燃ごみ廃棄量	497 kg/ 日	300 kg/ 日	39.7%削減	288 kg/ 日	42.1%削減

＊　温室効果ガス総排出量中の電気使用量分の CO_2 排出量は基礎排出係数を用いて算定

[*1] **ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）**：50% 以上の省エネルギーを図ったうえで、再生可能エネルギーなどの導入により、エネルギー消費量をさらに削減した建築物について、その削減量に応じて、①『ZEB』（100% 以上削減）、② Nearly ZEB（75% 以上 100% 未満削減）、③ ZEB Ready（再生可能エネルギー導入なし）と定義しており、また、30 ～ 40% 以上の省エネルギーを図り、かつ、省エネルギー効果が期待されているものの、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律に基づく省エネルギー計算プログラムにおいて現時点で評価されていない技術を導入している建築物のうち１万㎡以上のものを④ ZEB Oriented と定義しています。

２　施設の建築、管理などに関する取組み【公共建築課】

県有施設の電気設備・空調設備において、効率の良い機器、システムや新エネルギーの導入を推進しています。

今後も、その有効性等を考慮しながら、環境への負担の少ないシステムの導入を図っていきます。

表１- ６- ２　県有施設の省エネ・新エネシステム等導入実績

施設名	導入システム等	施設名	導入システム等
音楽堂	冷温水大温度差空調	芦原青年の家	木質ペレットボイラー
一乗谷朝倉氏遺跡博物館	照明制御 空調熱源台数制御 外気導入量制御（CO_2 制御）	県営体育館	冷温水大温度差空調 変風量方式空調 太陽光発電（10kW）
恐竜博物館	高効率モジュールチラー 空調熱源台数制御 外気冷房制御 外気導入量制御（CO_2 制御） 冷温水大温度差空調 冷温水変流量システム 変風量方式空調 太陽光発電（20kW）	県営球場	LED ナイター照明
		若狭湾エネルギー研究センター	高効率モジュールチラー 太陽光発電（20kW）
図書館・公文書館	温度成層型蓄熱式空調 冷温水大温度差空調 地中熱利用空調	合同庁舎（福井・奥越・若狭） 海浜自然センター 総合グリーンセンター 奥越特別支援学校 県立高等学校（武生・大野・藤島・高志・金津・武生東・敦賀・敦賀工業・坂井・足羽） 教育総合研究所	太陽光発電（各 10kW）
県立病院	冷温水大温度差空調 コージェネレーションシステム 空調用冷温水変流量システム		
県立病院関連施設	冷温水大温度差空調 空調用冷温水変流量システム 太陽熱利用給湯システム 高効率型変圧器		
こども家族館	冷温水大温度差空調 空調用冷温水変流量システム 置換空調システム 太陽光発電（10kW）	若狭ヘリポート	太陽光発電（13kW）
		消防学校 中小企業産業大学校	太陽光発電（各 20kW）
南越特別支援学校	冷温水大温度差空調 冷温水変流量システム	県庁舎	太陽光発電（30kW）

３　省エネ・省資源化・物品等の調達に関する取組み【環境政策課】

県では、製品やサービスの購入にあたって、必要性を十分に考慮し、価格や品質、デザインだけでなく、環境のことを考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先して購入する「グリーン購入」を推進しています。環境物品[*1]を積極的に購入することは、供給する側の企業にも環境負荷の少ない製品等の開発や環境に配慮した経営を促すことにつながり、循環型社会づくりに重要な役割を担っています。

県では、全国組織である「グリーン購入ネットワーク[*2]」に加入しグリーン購入の推進を図るとともに、環境配慮商品等を優先的に購入するため、平成13年４月に「福井県庁グリーン購入推進方針」を策定しました。この方針に基づき「調達計画」を毎年度策定し、県の全ての機関で計画的にグリーン購入に取り組んでいます。

[*1] **環境物品**：資源採取から製造、流通、使用、リサイクル、廃棄に至るまで物品等のライフサイクル全体について環境負荷の少ない物品のことを指します。

[*2] **グリーン購入ネットワーク**：グリーン購入の取組みを促進するために平成８年２月に設立された企業、民間団体、行政による全国規模のネットワーク組織で、会員数1,309団体（令和６年３月現在）。同ネットワークが主催し、グリーン購入のすぐれた取組みを行う団体を表彰する「グリーン購入大賞」において、平成14年の第５回では福井県が行政部門で大賞を、平成16年の第７回では清川メッキ工業株式会社（福井市）が中小事業者部門で大賞を、平成17年の第８回では敦賀信用金庫（敦賀市）が環境大臣賞を、平成30年の第19回では福井県がグリーン購入推進自治体特別賞をそれぞれ受賞しています。